

今回は、二世帯住宅で実母(要介護2)の介護をしている女性(網走市在住、40代主婦)からのご相談です。

質問

78歳になる母は3年前から人工透析を受けていますが、2年ほど前からもの忘れがひどくなってきたため、もの忘れ内科へ連れて行ったところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。最近では認知症の症状も進んできて、些細なことで怒って興奮することが目立ち始めました。人工透析を受ける日は私が車で送り迎えをしています。先月急に病院から「透析中かなり興奮され、大きな声で叫んだり、刺している針を自分で抜いてしまうので、このままの状態では当院での透析は無理なので、どこか入院可能な病院で透析をやるように相談してください」と言われてしまい、今は車で2時間ほどかかる別の病院で人工透析をお願いしています。先日、また病院に迷惑をかけてはいけないと思い、看護師さんへの前病院で言われたことを話したところ「とてもおとなしくされていますよ」と言わ

在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長
長尾クリニック・院長



お答えします

私は多くの在宅患者さんを診ていますが、人工透析を受けている要介護者が常に数人おられます。そして程度の差はあれ、認知機能が低下した方もおられます。以下こうした個人的な経験をもとにお話しします。

まず「興奮する」とのことですが、抗認知症薬を飲んでいないか確認してください。4種類ある抗認知症薬は基本的に興奮薬です。ですから薬の副作用で興奮することがあります。よく分からなければ、抗認知症薬を1週間程度中止して様子を見てくださ

透析においても「ユマニチュード」がキーワードになります

い。さらにたとえば胃薬であるH2プロトンポンプ阻害剤の「せん妄」を誘発する可能性がある薬を飲んでいないかもチェックしてください。薬の副作用による興奮を認知症だと誤診されているケースが多くあります。よく分からなければかかりつけの薬剤師さんに聞いてください。

次に、いわゆる認知症の「周辺症状」と呼ばれる興奮は、介護する人の「関わり方」で大きく変容することを知ってください。数多くの本がベストセラーになった「ユマニチュード」のように認知症の人の尊厳を大切に接し方をしていくという介護者に対しては「意味もなく興奮する」ということはあまりないはず。もし興奮するのであれば、何か興奮する理由があると考えると、接し方をチェックしてみてください。

実際、次の透析病院では看護師さんは「お

となしくされています」と話されているので、原因はお母さま側ではなく、透析スタッフ側にある可能性があるのではと思われました。介護する側の関わり方ひとつで180度違う態度になるのが認知症です。透析病院によっては認知症の方への関わり方の研修を受けているところとそうでないところがあります。透析においても「ユマニチュード」がキーワードになります。

それでも「興奮して透析できない」という状況であれば、まさに医療の出番かもしれません。本当に周辺症状としての興奮で透析が困難な状況であれば穏やかにする薬剤を少量だけ使う場合もあります。時には抗精神病薬と呼ばれる部類の薬剤を使って透析生活を維持する時もあります。しかし抗精神病薬は劇薬ですし、まして腎機能が極端に低下している人にはごくごく少量で驚

ユマニチュード(Humanitude)とは?

ユマニチュードとは、「人間らしさを取り戻す」という意味を持つ言葉です。認知症になった人は、記憶力や判断力が徐々に失われていくことで、強い不安や孤独を感じるようになります。その人に対して、「あなたはここにいます」「私はあなたのことを大切に思っています」というメッセージを、言葉、表情、態度などで伝え続けます。そうすることでその人の人間らしさを尊重し、人と人とのつながりを深めていく—これがユマニチュードの基本理念です。

この理念に基づいて編み出されたのが、ユマニチュードの具体的な技法で、介護される人に「自分は大切にされている、優しくされている」と感じてもらえる工夫が凝らされています。これを実践することで、介護における難題と考えられてきた認知症の人とのコミュニケーションが改善され、介護される人とする人、双方に良い効果をもたらされることが期待されています。(長尾クリニック機関誌「和(なごみ)」より)

くほど効きます。もし効きすぎると意識レベルが低下したり大変なことになりますから、まさに「さじ加減」が大切です。やむを得ず抗精神病薬を使用する場合は、最小必要量を期間限定で使うことが鉄則であることを知ってください。もし透析の先生が分からないと言われるのであれば、抗精神病薬を使い慣れている専門医に相談すべきでしょう。認知症を診る実力のある医師であれば、必ずやお母さまの透析が可能ないように

試行錯誤しながらでも工夫をしてくれるはずですよ。

私は極端に認知機能と生活機能が低下した要介護5の透析患者さんを在宅で最期まで診たことが3例ほどあります。以上の工夫をしながら10年単位で透析を受けた果てに、もはや意思疎通ができない、食事がほとんど入らないという方を自宅で看取りました。そのような状態の方は、腎機能だけでなく心機能や肝機能も低下しています。複数の臓器の機能が低下した病態を「多臓器不全」と呼びます。当たり前のことですが透析で無限に生きられるわけではありません。透析の限界とは多臓器不全です。そうなる透析に連れ出すこともできなくなります。家族からの透析に行けない、との申し入れを透析病院に伝えました。結局、2週間後、穏やかに自宅で旅立たれました。今後、そんな事態が増えるのではと予想しています。

お母さまの場合は、まだまだそんな段階ではなさそうですね。だから接し方と薬剤の力を借りてなんとか透析治療を継続する努力をなさってください。笑顔で暮らすこ

著者紹介

とは充分可能に思えます。しかし一方、いつかは(何年後かは分かりませんが)多臓器不全に陥り、透析に通えなくなる時が来るでしょう。その時に在宅で過ごすのか、最期の最期まで病院に入院して透析を受けるのかは患者さん側の自由です。大切なことはそうしたことを透析のスタッフと何度も話し合うことです。

昨年「人生会議」が国策となりました

が透析患者さんこそ人生会議をしつかりやるべき病態だと思えます。ポイントは比較的元気な時から始めることです。いくら興奮気味といっても上手に接すれば本人の希望を聞き出すことは可能はず。もし機会があればみんながいる席で「お母さん、病院に通うのが難しくなったら入院する？」と明るい雰囲気聞いてみてください。

病気の9割は歩くだけで治る!

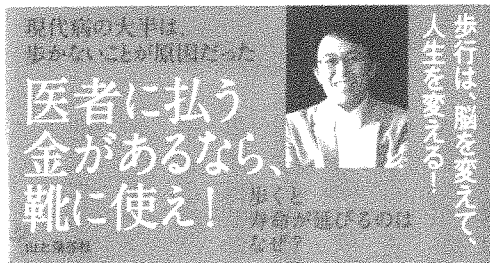
歩行が人生を変える29の理由

長尾クリニック 院長 長尾和宏

簡単、無料で医者いらず

病気の9割は歩くだけで治る!

歩行が人生を変える29の理由



著者/編集: 長尾和宏
出版社: 山と溪谷社
価格: 1200円+税

長尾先生が、簡単、ただで出来る、医者知らずの『とっておきの健康法』を初めて著す！
歩くことがどれだけ健康に良いかということ、医者の立場から科学的に証明。
歩行が人生を変える29の理由をわかりやすく説明する本です。

きらめき

プラス

Vol.76 文月

やじるしは常に自分に向ける

山下誠司

障害児者自立体験施設
りんご村の活動に触れて

遠藤勇

